

絵本のまち有田川 絵本が日常になる

有田川町について

有田川町は和歌山県の紀中地域に位置し、平成18年に旧吉備町、旧金屋町、旧清水町の3町が合併した町で、人口27000人弱、合併により面積351・84㎦で県下一面積の広い町となりました。有田みかんや、棚田百選にも選ばれたあらぎ島、日本一の生産高のぶどう山椒などが有名です。有田川町には、「本のあるカフェ」をコンセプトとした「有田川町地域交流センター」、児童書サービス中心の「金屋図書館」、絵本の原画展を開催している「ちいさな駅美術館」、学校

図書館と一体化した「しみず図書室」そして「移動図書館コスモス号」これらすべてを一体化し「有田川ライブラリー」として運営を行っています。



有田川町地域交流センター

地域交流センターの建設

絵本による取り組みは、金屋図書館で合併前より行われており、本格的にまちづくりとして発展するきっかけとなったのが、平成21年4月にオープンした有田川町地域交流センターです。このセンターは、町民が気軽に利用できる文化情報拠点として建設され、屋内には図書コーナー、多目的ホール、喫茶コーナーがあり、屋外にはオープンテラスがあります。お茶を飲みながら本が読めるなど従来の図書館が持つイメージを覆した施設が住民に受け入れられ月1万人が来館される施設となり、この実績より図書資料費も、それまでの6倍の1200万円になりました。

タイムリーだった地域活性化交付金

金屋図書館では、段階に応じた子育て・読書支援を行い4ヶ月の赤ちゃんを対象にブックスタートとわらべうた教室、2歳〜未就園児を対象に、ブックラザという造形遊びを行います。そして、よみきかせのおはなし会へ、その後は、

有田川町教育委員会 教育部社会教育課
文化情報班 班長 青石 賢治

小学校1〜3年生の絵本の読み聞かせをしながらの工作教室（ブックランド）4〜6年生は（ブックカフェ）というブックトークの会をするなど、「絵本」を軸に事業を展開してきました。

そんな中、図書館など光が十分に当てられてこなかった分野に対する地方の取り組みを支援する、住民生活に光をそそぐ交付金が平成22年度に創設され、これを使い電子図書館システムの導入、移動図書館の買い替え、「ちいさな駅美術館」の開館、「絵本コンクール」実



金屋図書館でのブックスタートの様子



ちいさな駅美術館